

凌霜

388



「リアルト橋のある風景（ヴェネツィア）」 昭30法 野口 順一

神戸大学 凌霜会

ずしさを感じました。中でも皆さまが「神戸大学に入ったことで人生が変わった」と同様に口にされていたのが印象に残りました。また、全国どこへ行ってもこのような会があり、同窓ということで温かく迎えてくれ大変ありがたいたいという言葉に、改めて同窓会の意義を感じました。

最後は向田、高橋両先輩のリードで恒例の「商神」を合唱し、西川先輩の締め言葉でお開きとなりました。
次回は平成23年夏頃の開催を予定しています。(戸山)

▽: 海峡水霜会、凌霜会下関支部総会: △

と き 12月2日(木)

と ころ シーモールパレス (下関市)

年末の恒例行事となった凌霜会と如水会の関門4支部による合同懇親会は、前回提案の「海峡水霜会」なる新名称の下、如水会下関支部の引き受けにより開催された。

開会冒頭の主宰支部長挨拶に続き、凌霜会下関支部長・林氏による乾杯の発声で開宴。今回は出席者全員が座席指定の形を取り、ふぐ会席とまではいかないながらも、地元下関ならではの海鮮料理を堪能しつつ、懇談の輪

が広がっていった。宴もたけなわとなる中、会員が順次登壇し回想や近況報告が行われたが、感銘深きは凌霜会の長老お二人のスピーチ。林氏は「新老人の会」運動への取り組みを活気ある語調で紹介され、北九州支部の隅野氏からは健康管理法と朗々たる詩吟が披露された。また、異色の発表として一同を驚かせたのは、本格派歌手ながらにイタリア歌曲「オーソレミオ」が歌い上げられたり、旧満州育ちの会員による本邦初公開と前置きした「満州国歌」の詠唱があり、聴く者を感動させた。このようにバラエティーに富む集いとなったものの、惜しむらくは若手会員の声を聞く時間が無くなり、終宴の時間となったのは残念と言うほかはない。最後は、次回引き受けの凌霜会北九州支部の金谷支部長による締めで閉会した。

引き続き席を移して、凌霜会下関支部の総会が開催され、林支部長の辞意に伴う役員改選が諮られた。同氏には顧問就任をお願いし、長年にわたる支部運営への謝意を込めて花束が贈呈された。

凌霜会の出席者 18名

下関支部
林 三雄(昭19) 山本 猛彦(28経)
前田 博司(31営) 中嶋 潔(48営)
矢野 彰一(52法) 岡寺 敏之(53営)

▽: 夏の例会: △

と き 7月31日(土) 午後6時

と ころ 松山ワシントンホテルプラザ2階

夏の暑さは愛媛の松山でも尋常ではなかった。その猛暑の最中に、恒例の神戸大学学友会愛媛県支部による夏の例会を開催した。

今回は、平成21年11月に、それまで未踏峰であった中国チベット自治区のKG12峰(ロプチン峰6,805m)の初登頂に成功した神戸大学・中国地質大学(武漢)カンリガルボ山群合同学術登山隊長の井上達男氏(46工)、副隊長の山田健氏(54工)のお二方を迎え、初登頂のお話をお伺いすること

山田 久嘉(53経) 倉田 佳郎(55営)
平井 薫(57経) 浅川 徹(5法)
大橋 弘幸(5法)
北九州支部
隅野 博行(昭23) 金谷 康彦(30営)
児嶋 雅昭(42法) 児嶋かよ子(42法)
久保 久(46経) 菊本 泰彦(51経)
広瀬 隆明(52営)
如水会の出席者 25名
下関支部 10名 北九州支部 15名 (山本)



こう説明に、出席者全員が驚きと感動の様子であった。かつて見たこともない本当に美しいチベットの間々や自然の光景に感嘆の声を上げるとともに、その一方で自然の厳しい姿を捉えた息を呑むような写真もあって、いかに今回の初登頂が隊員の皆さんの幾多の苦労によって成し遂げられたかがよく分かり、誠に真に迫るものがあった。今回のお二方の来県に当たっては、神戸大学山岳部員であった学

になった。プロジェクトからスタートしクリンに映し出される数多くの写真を見ながらのお話で、登頂に至るまでの経緯や今回の計画、そして登頂時の数々の苦難を経て初登頂という快挙を成し遂げたとい

友会愛媛県支部の白形氏のお力添えによって実現した。井上、山田、白形のお三方に対し、改めて感謝を申し上げる次第である。
なお、ここで嬉しいお知らせを一つ。私どもの同窓会の前会長で愛媛大学名誉教授・木村五郎先生が、春の叙勲で教育研究功勞により瑞宝中綬章を受章された。誠におめでたい限りであり、心からお喜び申し上げます。先生には今後ともご健健で、引き続きご指導を賜ることを切にお願い申し上げます。

出席者 22名

- 木村五郎 (32法院)、加藤裕朗 (32経)、横山泰起、日野 洵 (35営)、奥山忠政 (35法)、澤田俊輔 (37経)、佐藤寿彦 (38経)、山川豊夫 (39経)、藤川研策 (39法)、渡部 剛 (44経)、神森忠興 (44工)、白形 洋 (45工)、渡部浩三 (48経)、村上 聖 (48工)、篠崎泰男 (49経)、越智和彦 (55法)、大西亮一 (58法)、森川真由美 (58教)、篠崎美由紀 (62法)、末光健二 (9営)、宮内雅史 (11経)、高市将光 (22営) (越智)

熊 本

▽：秋の昼食会：△

とき 9月25日(土) 午後12時半～2時
ところ 熊本全日空ホテルニユースカイ1階

「郷土料理 光琳」
出席者 9名
水田 義明 (30営) 中釜 善郎 (30営)
加登住 积 (39経) 宮崎 豊喜 (42経)
久峨 章義 (52営) 篠田 有司 (57経)
雑賀 庸泰 (6法) 岩崎生之助 (13法)
田川 千乃 (18発達)
従来の「夕食会」を今回から「昼食会」に変更しました。参加人数こそ少なかったのですが、お互いの近況報告より始まり、昨今の複雑な政治、経済、社会の話や懐かしい学生時代の思い出話などに花が咲き、また「商神」を歌い、大いに盛り上がり楽しい凌霜の集いでした。



熊本県内
にお越しの折は、ご連絡ください。
(宮崎)

ブラジル

▽：ブラジル凌霜会：△

とき 2010 (平成22) 年3月20日
ところ サンパウロ

1960年代のブラジル凌霜会は、会員43人のうち8割強の35人が当地に永住覚悟で移

日を見張るほど顕著ですが、私は早晩日本勢も態勢を立て直して、彼らに拮抗した姿で事業展開が再開されることを信じて疑いません。そうなることと今後、進出企業中の凌霜出身の駐在員の数も増加しないとは限りません。そういったことを考慮したわれわれの現在の結論は「今やブラジル凌霜会は新旧交代の時機にきており、今後は日本からの進出企業勤務の

人の代表の介添え役を務めて頂くことになりました。この陣容の初仕事は、ま



篤本、山田、足達、瀬戸口健 (昭三浦清司 (昭34)、仲西、勝屋